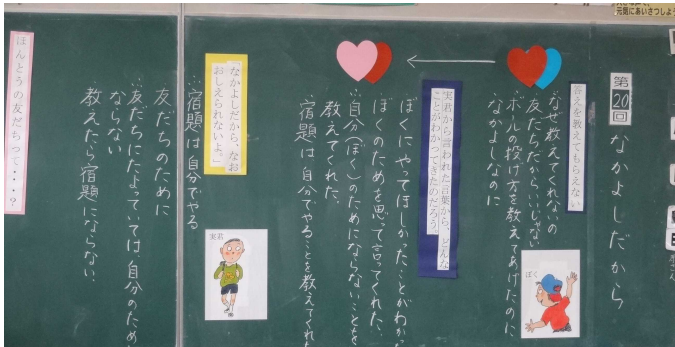


3年道徳の授業「なかよしだから」

『友この気に友ごがだ
生り、活面見過とも
3年が反る動するの
教材が活な行おうと
教し関係のく強いど
いま集団が強悪ので
とえ考は意識が達こ
「なかよしだから」で
だにとも集ま仲間友
しだにとも集ま仲間友
よ頼子間まとあめに
か信期、仲きらがた
情の時合うてかとの
「なかよしだから」に



「なかよしだから」あらすじ
「ぼく」は、うっかり算数の宿題を
忘れてしまった。お返しのカードを
忘れた。お返しのカードを
教君に、お返しのカードを
「なかよしだから、な
よ。」と断られてしまう。

授業の前、子どもたちの考える友達は「やさしい人」「一緒に遊んでくれる人」などでした。授業後には、今まで考えていた友達に「相手のことを考えられる人」「悪いことをしていたら止められる人」といった新たな考えが加わりました。

5年道徳の授業「くずれ落ちただんボール箱」

「くずれ落ちただんボール箱」という教材を使い、『思いやり、親切』について考えました。子どもたちは、困っている人に親切にした方がよいという意識は持っているようです。しかし、誰にでも親切にするというのは難しいようです。そこで、相手を改めて親切にするという考えさせるところで、そんな大切なことに気が付かせたいと考えました。



「くずれ落ちただんボール箱」あらすじ
男の子が崩してしまっ
ボール箱をおぼあがさ
始め、おぼあがさ
子が、おぼあがさ
られ、おぼあがさ
あられ、おぼあがさ
抱えてしまう。

『本当の親切をするために大切なこと』として、「困っている人がいたらまわりの人を気にしないでやるのが大切」「褒められるから親切にするのではなく、声を掛けたり、助けたり、親切にすることが大切」「思いやりの心が大切」いった意見が出されました。授業を通して、「親切にすれば、相手がうれしいし、親切にできた自分もうれしい」「ありがとうを言ってもらうからやるんじゃない、相手のことを考えて親切にするのが1番だ」といった感想を持ちました。